

令和4年度秋田県放課後児童支援員等資質向上研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります。)

県央会場

科目 ①障害児の支援 インクルーシブ教育

- ◆ インクルーシブ教育の研修を受けて今後仕事をする上で意識したいことは、子どもたちを見守る際、見る角度を変えて考えることです。研修中、自分の短所を挙げて、それを他の方にプラスのことにしてもらい時間があふ、ものの見方一つで子どもの良いところがどんどん増えていくことが分かりました。マイナスな面と考えることを減らし、子どもたちのプラスを伸ばしてけるように見守りを行いたいです。
- ◆ 障害者の差別をなくすことについて意識するというだけでなく、法律で決められていることに驚きました。また、障害がある者となない者が共に学ぶ仕組みとして合理的な配慮の提供が必要であることを学びました。特に話を静かに聞くのが苦手な指示がうまく伝わらない子には、スケジュールを書くなどして流れを明示し視覚的な補助をするといった環境を変えることの大切さを学ぶことができたので、今後役に立てていきたいと思いました。
- ◆ 私の勤務するクラブでも、現在障害児の受入を行っています。日頃、その児童と関わり合う中で、小さなことでも「どうしたら分かってもらえるのだろうか？」などと考えることが多くあります。今回の研修では「見方を変える」という言葉がとても心に響きました。確かに考えてみるといつも指導する上で、否定的なことやマイナスなことばかり見たり考えたりしているような気がします。良いこと悪いことを教えていくのは当然ですが、全てをマイナスに受け止めるのではなく、良いところを見つけその部分を尊重し、子どもの成長を見守り支援していくのが、大人たちの役割なのだと改めて考えさせられる研修でした。
- ◆ 今回の研修では、インクルーシブ教育について理解することができました。障害者が社会参加していくうえで、個人に必要な合理的配慮がなされることが非常に大事だということが分かりました。また、障害者の立場になって物事を考えてみるのも必要な事だと思いました。演習では他の施設の方との情報交換もでき、大変参考になりました。今後の業務に活かしていきたいと思います。
- ◆ 今回の講義で、障害児への理解や関わり方について、理解を深めることができました。特に演習で学んだ「要因と支援」については、どうして指示が通らないのか、改善するにはどうすべきかを考えるヒントになりました。児童との関わり方において、反応をしないという関わり方も大切であることを知ることができ、普段の保育でも活かしていきたいと思います。